

3206 274

大正天皇實錄

卷七十七

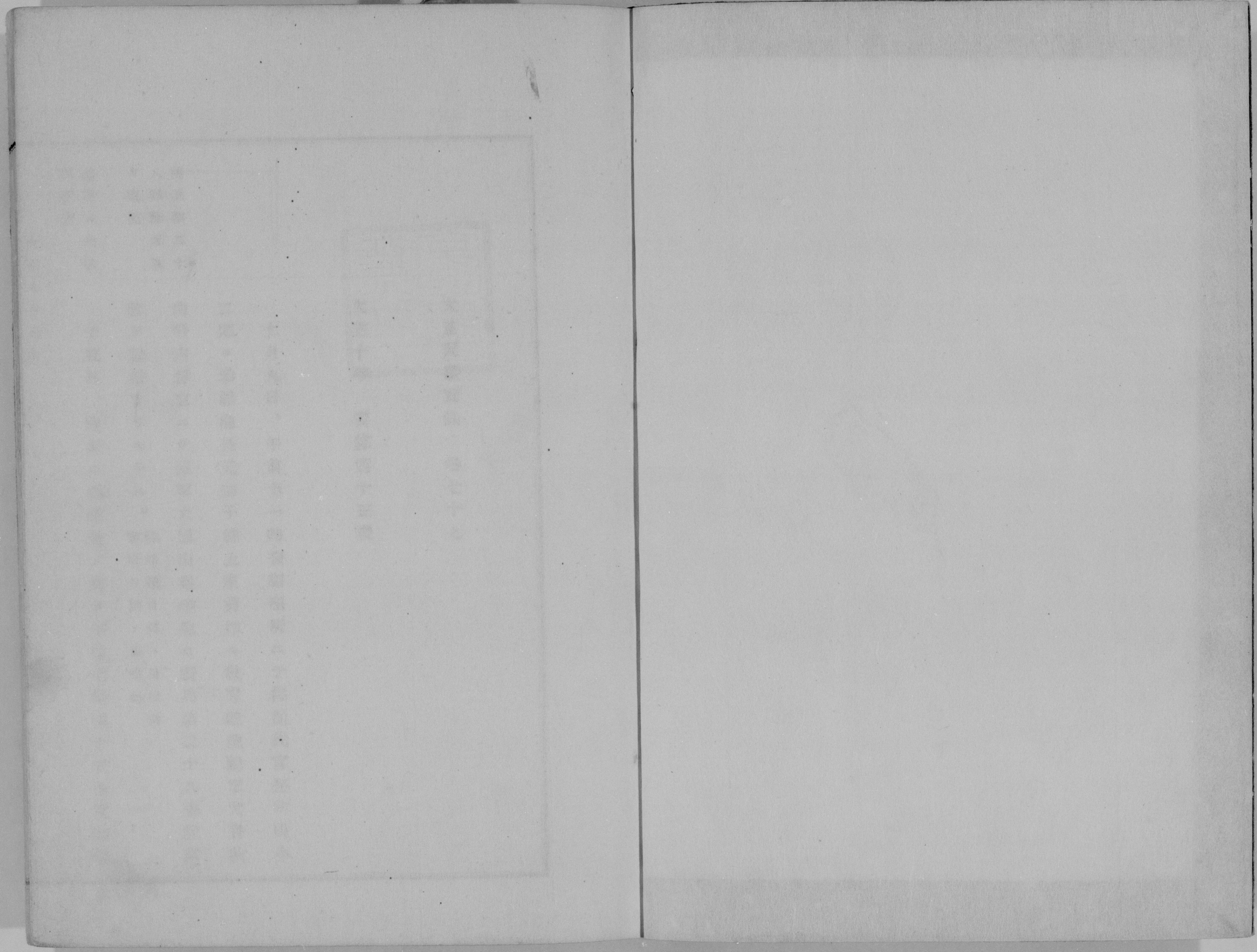
圖書寮	
番號	64047
冊數	97
函號	秘 4



年 卯

年物

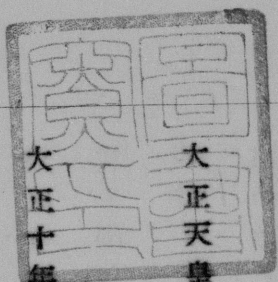
3206 275



3206 276

年物

騎兵第二十
八聯隊軍旗
ヲ親授
鹽原ニ行幸
御避暑



大正天皇實錄 卷七十七
大正十年 寶算四十三歲

七月九日、午前十一時表御座所ニテ侍從武官長内山小二郎・參謀總長元帥子爵上原勇作・教育總監陸軍大將秋山好古侍立ニテ陸軍大臣山梨半造ニ騎兵第二十八聯隊軍旗ヲ親授アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日誌・儀式錄
十五日、鹽原ニ御避暑ノ爲メ午前七時四十五分宮城御

大正十年七月

島川文八郎
薨ズ

出門、八時五分上野停車場御發車、皇族及ビ臣僚ノ奉送ヲ受ケサセラレ、十一時四十分西那須野停車場御著車、午後零時三十分鹽原御用邸ニ著御、是ヨリ二十二日ニ至ルマデ駐蹕、其ノ間、屢々自動車ニテ御料地紅葉山ニ遊幸アラセラレタリ。侍從武官府日記・典侍日記・侍從職日記・幸啓録・官報

十六日、陸軍大將從三位勳一等功三級島川文八郎病篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正三位ニ敘セラル。其ノ薨ズルニ及ビ、十八日祭料金貳千圓ヲ賜ヒ、送葬ニ當リテ、侍從男爵徳川義恕ヲ勅使トシテ同邸ニ遣シ幣帛ヲ賜フ。文八郎、明治十八年六月砲兵少尉ニ出身以來、

圖書寮

堤正誼薨ズ

累進シテ陸軍大將トナリ、其ノ間、兵器局長。技術審査部長。技術本部長等ノ要職ニアリテ無煙火藥ノ應用ヲ大成シ、各種兵器ノ進歩改良ニ貢獻セシ處尠カラザリシヲ以テナリ。侍從職日記・恩賜録・官報

十九日、宮中顧問官從二位勳一等男爵堤正誼病篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正二位ニ敘セラル。其ノ薨ズルニ及ビ祭料金參千圓ヲ賜フ。二十三日送葬ニヨリ、前日勅使侍從河饒實英ヲ同邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。正誼、明治二年福井藩權大參事ニ出身、四年侍從ニ任ゼラレ、調度局長。内匠頭。御料局長。宮内次官。東宮御

諾威國皇帝、
皇后ニ勳章
御贈進

師團長ノ更
迭

所御造營局長等ノ教官ヲ歷任シ、三十九年宮中顧問官ニ
膺リ、功績尠カラズ。猶ホ三十三年男爵ヲ授ケラレタリ。
侍從職日記・
恩賜錄・官報

二十日、諾威國皇帝は、こん第七世銀婚式舉行ニヨリ
皇帝ニ大勳位菊花章頸飾ヲ、皇后ニ勳一等寶冠章ヲ御贈
進アリ、且ツ祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。 外交廳
錄・官報

是ノ日、陸軍中將從四位勳二等功三級森岡守成ヲ第十
二師團長ニ、同正五位勳三等功三級小野寺重太郎ヲ第八
師團長ニ、同正五位勳三等功四級大野豐四ヲ第十七師團
長ニ、同正五位勳二等功四級上田太郎ヲ第十九師團長ニ

日光ニ移御

皇族ノ天機
奉伺

補シ、第十二師團長陸軍中將木下宇三郎。第八師團長陸
軍中將向井二郎。第十七師團長陸軍中將古海巖潮。第十
九師團長陸軍中將子爵高島友武ヲ豫備役トナス。 官報

二十二日、午前八時四十分鹽原御用邸御出門、正午日
光田母澤御用邸ニ移御、是ヨリ九月二十一日ニ至ルマデ
駐蹕アラセラル。皇后ハ昨二十一日宮城ヨリ同御用邸ニ
行啓アラセラレタリ。 侍從職日記・侍從武官府日誌・
典侍日記・行啓錄・官報

二十五日、宣仁親王參候セルヲ以テ謁ヲ賜ヒ、午餐ニ
陪セシム。猶ホ駐蹕中謁ヲ賜ヘル皇族ニハ雍仁親王。成
久王。同妃房子内親王。稔彦王妃聰子内親王。博恭王。

大正十年七月

四

諸威國皇帝
皇后ニ勳章
御贈進

師團長ノ更
造

所御造營局長等ノ教官ヲ歷任シ、三十九年宮中顧問官ニ
膺リ、功績抄カラズ。猶ホ三十三年男爵ヲ授ケラレタリ。
侍從職日記・
恩賜錄・官報

二十日、諸威國皇帝は、こん第七世銀婚式舉行ニヨリ
皇帝ニ大勳位菊花章頸飾ヲ、皇后ニ勳一等寶冠章ヲ御贈
進アリ、且ツ祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。外交廳弔
錄・官報
是ノ日、陸軍中將從四位勳二等功三級森岡守成ヲ第十
二師團長ニ、同正五位勳三等功三級小野寺重太郎ヲ第八
師團長ニ、同正五位勳三等功四級大野豐四ヲ第十七師團
長ニ、同正五位勳二等功四級上田太郎ヲ第十九師團長ニ

圖書寮

日光ニ移御

皇族ノ天機
奉伺

補シ、第十二師團長陸軍中將木下宇三郎。第八師團長陸
軍中將向井二郎。第十七師團長陸軍中將古海嚴潮。第十
九師團長陸軍中將子爵高島友武ヲ豫備役トナス。官報

二十二日、午前八時四十分鹽原御用邸御出門、正午日
光田母澤御用邸ニ移御、是ヨリ九月二十一日ニ至ルマデ
駐蹕アラセラル。皇后ハ昨二十一日宮城ヨリ同御用邸ニ
行啓アラセラレタリ。侍從職日記・侍從武官府日誌・
典侍日記・行啓錄・官報

二十五日、宣仁親王參候セルヲ以テ謁ヲ賜ヒ、午餐ニ
陪セシム。猶ホ駐蹕中謁ヲ賜ヘル皇族ニハ雍仁親王。成
久王。同妃房子内親王。稔彦王妃聰子内親王。博恭王。

大正十年七月

五

年師ヲ用

同妃經子。博忠王。朝融王。守正王。同妃伊都子。故恒
 久王妃昌子内親王。恒憲王。同妃敏子。武彦王。博義王。
 同妃朝子。載仁親王。依仁親王妃周子。邦彦王。同妃倪
 子。鳩彦王。同妃允子内親王アリ、就中、成久王。同妃
 房子内親王。稔彦王妃聰子内親王。故恒久王妃昌子内親
 王。載仁親王。邦彦王。同妃倪子。鳩彦王。同妃允子内
 親王ニハ午餐ヲモ賜ヘリ。又崇仁親王ハ附屬邸ニ滞在ス
 ルヲ以テ概ネ連日謁ヲ賜ヒ、時ニハ御運動ノ途次、其ノ
 邸ニ臨マセ給ヘリ。猶ホ王世子李垠ニモ賜謁ノコトアリ。
 侍從職日記。侍從武官府
 日誌。幸啓錄。行幸錄

圖書寮

佐藤進亮ノ

二十六日、陸軍軍醫總監從三位勳二等男爵佐藤進亮病篤
 キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正三位ニ敍シ、勳一
 等瑞寶章ヲ授ケラル。其ノ薨ズルニ及ビ祭葬料金七百圓
 ヲ賜フ。二十九日送葬ニヨリ、二十八日侍從落合爲誠ヲ
 勅使トシテ同邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。進、明治十年四月
 陸軍軍醫ニ出身以來、累進シテ陸軍軍醫總監トナリ、其
 ノ間、陸軍諸病院長トナリ、屢々戰役ニ參加シ、又宮内
 省御用掛ヲ仰付ラル。夙ニ西洋醫術ヲ研究シ、我が軍陣
 外科ニ貢獻セシ等ノ功ニ依リ明治四十年男爵ヲ授ケラレ
 タリ。侍從職日記。
 恩賜錄。官報

年報 3月

八月三日、豊明殿ニテ支那前國務總理朱啓鈴及ビ女三名竝ビニ同國特命全權公使胡惟德夫妻等ニ午饗ヲ賜ヒ、依仁親王・同妃周子ヲシテ臨席セシメラル。侍從職日記・典侍日記・官報・謁見録

五日、元帥子爵井上良馨ニ謁ヲ賜ヒ、軍事參議官會議ニ關スル奏上ヲ叡聞アラセラル。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日誌・幸啓

是ノ日、暹羅國皇帝叔父アヂラヤン薨ゼルニヨリ、弔問ノ電報ヲ皇帝アヂラヤンウードニ發送アラセラル。外交慶弔録・官報

圖書寮

特命檢閱使

八日、海軍大將男爵島村速雄ニ特命檢閱使ヲ命ジ、聯合艦隊司令長官ノ統率スル艦隊ニ就キ査閲セシメラル。尋イデ十月五日島村特命檢閱使ヲ召シ、査閲成績ノ覆奏ヲ叡聞アラセラレ、翌六日千種間ニ於テ依仁親王・博恭王ヲシテ臨席セシメ、屬員等ト俱ニ午饗ヲ賜ヘリ。侍從職日記・侍從武官府日誌・謁見録・附録・幸啓録・宣召録・官報
十一日、從三位勳三等前田正名ニ勳功ニ依リ男爵ヲ授ケラル。正名、明治二年佛蘭西國ニ留學シ、後、知事・農商務次官・元老院議員ヲ歴任シ、又、一步圖。五二會等ヲ開設シテ我が實業ノ振興ニ努力セル廉ヲ以テナリ。

年物ヲ用

王世子李垠ノ皇子ヲ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テス

官報・授爵録

十八日、王世子李垠妃方子女王分娩、第一男子誕生ス。仍リテ曩ニ舊韓國皇室ニ示シ給ヘル優遇ノ殊典ヲ増廣シ、特ニ詔書ヲ換發セラレ、其ノ所出ノ皇子ヲ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ、殿下ノ敬稱ヲ用ヒシメラル。其ノ詔左ノ如シ。

朕惟フニ王世子李垠ハ李家ノ元儲ニシテ令間日ニ升リ積徳月ニ高ク洵ニ内外ノ瞻望タリ我カ皇考子愛最渥ク久ク寵光ヲ承ク故ニ朕ノ王世子ニ對スル情誼殊ニ篤ク親眷渝ルコトナシ今次李家慶アリ

圖書寮

厥ノ生誕スル所ノ皇子ハ世家率循ノ系嗣ニシテ宜ク方ニ休祉ヲ享ケシムヘシ乃チ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用キシム茲ニ皇考ノ

聖慮ヲ體シテ殊遇ノ意ヲ昭ニス

是ニ於テ十九日王世子李垠日光田母澤御用邸ニ候シ恩ヲ謝ス。即チ賜ヲ賜フ。又二十四日晉ト命名アルヤ賀品ヲ垠ニ賜ヘリ。侍從職日記・典侍日記・幸啓録・行幸録・宮内省省報・皇親錄・王公族錄・官報 二十七日、從二位勳一等渡邊千秋病篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正二位ニ敘セラル。其ノ薨ズルニ及

渡邊千秋薨ズ

象太郎

天長節

ビ祭料金五千圓ヲ賜フ。三十日送葬ニヨリ前日侍從河
 備實英ヲ勅使トシテ同邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。千秋、幕
 末維新ノ際王事ニ奔走シ、明治後、地方官。司法官。宮
 内官等ヲ歴任シ、四十三年宮内大臣トナリ功績アリ。仍
 リテ明治三十三年男爵ヲ授ケラレ、四十年子爵ニ、四十
 四年伯爵ニ陞セラレタリ。侍從職日記・宮内省
省報・恩賜錄・官報
 三十一日、天長節ニヨリ崇仁親王。故恒久王妃昌子内
 親王。内大臣侯爵松方正義。宮内大臣子爵牧野伸顯及ビ
 供奉高等官等ノ拜賀ヲ受ケ給ヒ、正午内宴ヲ開カセラル。
侍從職日記・典侍日記・侍從武
官府日誌・幸啓錄・宮内省省報

國分象太郎
薨ズ

九月一日、農商務大臣男爵山本達雄ノ妻タホ逝ケルヲ
 以テ、侍從男爵徳川義恕ヲ其ノ邸ニ遣シ、御料理。御菓
 子ヲ賜ヒ慰問セシメラル。恩賜錄・侍
從職日記
 七日、李王職次官正四位勳一等國分象太郎病篤キニヨ
 リ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從三位ニ敍シ、旭日大綬章
 ヲ加授セラル。其ノ薨ズルニ及ビ祭料金貳千五百圓ヲ
 賜フ。九日送葬ニヨリ朝鮮總督府事務官松永武吉ヲ勅使
 トシテ同邸ニ遣シ、幣帛ヲ賜フ。象太郎、明治十七年外
 務省御用掛ニ出身以來、數官ヲ經テ朝鮮總督府人事局長
 兼朝鮮總督府中樞院書記官長。李王職事務官。同次官ニ

年御ヲ用

皇太子ヲシ
テ白國大使
信任狀ヲ代
受セシム

歴任シ、其ノ功績顯著タリシヲ以テナリ。官報・恩賜録

十五日、午前十時三十分皇太子裕仁親王ヲシテ白耳義

國特命全權大使あるべし。ど。ばつそむびえしる及ビ

隨員ヲ引見シ、信任狀ヲ受ケシメラル。典侍日記・幸略

宮外事務
録・官報

十七日、參謀總長元帥子爵上原勇作ヲ日光田母澤御用

邸ニ召シ、陸軍特別大演習統監ノ件ニ就キ御沙汰アラセ

ラル。侍從職日記・侍從武
官府日誌・幸略録

二十一日、午前七時三十五分皇后ト俱ニ日光田母澤御

用邸御出門、同四十五分日光停車場御發車、十一時十五

日光ヨリ皇
后ト俱ニ還
幸

供奉員

分上野停車場ニ御著車、皇太子裕仁親王以下各皇族及ビ
臣僚ノ奉迎ヲ受ケ給ヒ、十一時四十分宮城ニ還幸アラセ
ラル。

猶ホ鹽原。日光駐蹕中供奉ヲ命ゼラレタル者ハ、宮内

大臣子爵牧野伸顯。宮内次官關屋貞三郎。宮内書記官大

谷正男。同大木彝雄。同金田才平。同酒卷芳男。同淺田

惠一。同杉塚磨。宮内大臣秘書官男爵白根松介。内大臣

秘書官松井定克。同北村信篤。侍從長伯爵正親町實正。

侍從武官長内山小二郎。侍從次長伯爵德川達孝。侍從原

恒太郎。同子爵松浦靖。同落合爲誠。同加藤泰通。同子

年報

大審院長・
檢事總長ノ
親補

賜
餐

局長官倉富勇三郎ニ宗秩寮總裁事務取扱ヲ仰付ケラル。
猶ホ特旨ヲ以テ氏共ノ位一級ヲ進メ正二位ニ敘シ、旭日
桐花大綬章ヲ加授セラレ、多年ノ勳勞ヲ嘉尙アラセラル。
官報・
進退録・

五日、午前十時三十分親任式ヲ行ハセラレ、檢事正三
位勳一等平沼騏一郎ヲ判事ニ親任シ大審院長ニ、司法次
官正四位勳一等鈴木喜三郎ヲ檢事ニ親任シ檢事總長ニ親
補セラル。侍從職日記・官報

六日、吳鎮守府司令長官海軍大將村上格一以下各鎮守
府司令長官ニ謁ヲ賜ヒ、管下ノ狀況ヲ叵聞アリ、正午千

圖書寮

軍備縮小會
議參列ノ全
權委員ノ任
命ト賜餐

鐵道五十年
祝典ニ御名
代トシテ皇
太子ヲ差遣
シテ勅語ヲ
賜フ

種間ニテ午餐ヲ賜ヒ、依仁親王・博恭王ヲシテ臨席セシ
メラル。侍從職日記・侍從武官
府日誌・宣召録・官報

十一日、是ヨリ先、九月二十七日海軍大臣男爵加藤友
三郎・特命全權大使男爵幣原喜重郎・正三位勳一等公爵
徳川家達ヲ華盛頓會議ニ帝國全權委員トシテ參列ヲ命ゼ
ラレ、是ノ日宮中ニテ友三郎・家達及ビ隨員等ニ午餐ヲ
賜ヒ、載仁親王ヲシテ臨席セシメラル。侍從職日記・
宣召録・官報

十四日、鐵道五十年祝典ヲ舉行スルニヨリ、皇太子裕
仁親王ヲ御名代トシテ其ノ式場ニ臨マシメ、左ノ勅語ヲ
賜フ。

年節ク用

茲ニ鐵道五十年祝典ヲ行フハ朕之ヲ喜フ鐵道ハ國計
 民生ニ關スルコト大ナリ故ニ創設ノ初皇考親臨シテ
 式ヲ舉ケ期スルニ普及ヲ以テシタマヘリ今ヤ遠邇開
 通シテ文化産業等ノ進展多ク其ノ便ニ賴ル朕深ク前
 後在職諸員ノ勞績ヲ嘉シ更ニ諸員益々勉勵シ時ニ隨
 ヒ宜ニ從ヒ其ノ發達ヲ圖リ以テ便益ヲ弘メムコトヲ
 望ム

皇太子午前十時二十分宮城出門、式場ニ臨ミ、十一時四
 十分還啓、復命セラル。

抑、我が國ニ於ケル鐵道國營ノ濫觴ハ明治二年十一月

國營專業トシテ東京神戸間及ビ長濱敦賀間ニ其ノ敷設ノ
 案成リ、同三年東京横濱間ニ工ヲ起シ、五年始メテ之ガ
 開通ヲ見ルニ至リ、九月十二日其ノ盛典ヲ舉ゲ、長クモ
 明治天皇ノ臨幸ヲ仰ギシナリ。爾後、漸次各線開通シ、
 更ニ私設鐵道會社ノ創立ヲ誘掖シ、日本鐵道株式會社。
 山陽鐵道株式會社等相續キテ各私線ヲ敷設シ、後、鐵道
 國有法ニヨリテ私線ヲ買收スルニ至リ、大正九年鐵道院
 ヲ改メテ一省トシ、鐵道省ノ新設ヲ見、更ニ茲ニ其ノ五
 十年ヲ迎ヘ、今ヤ凡ソ一萬軒内外ノ總延長ニ達スルニ至
 レリ。侍從職日記、典侍日
 記、皇親錄、官報

年功賞用

十一年度海軍作戰計策等ヲ裁可

賜

股野王丸薨ズ

十五日、午前十時海軍軍令部長海軍大將山下源太郎ニ謁ヲ賜ヒ、明年度帝國海軍作戰計策及ビ戰時編制制定ニ關スル上奏ヲ觀開アリ、尋イデ侍從武官長内山小二郎ヲ元帥子爵井上良馨。同伯爵東郷平八郎ノ邸ニ遣シ、諮詢ノ後、之ヲ裁可アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日誌

是ノ日、正午豐明殿ニ各控訴院長。判事。檢事等ヲ召シ、午餐ヲ賜ヒ、博恭王ヲシテ臨席セシメラル。侍從職日記・官報

十六日、故宮中顧問官從二位勳一等股野琢送葬ニヨリ侍從落合爲誠ヲ勅使トシテ其ノ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜フ。更

圖書寮

皇太子ヲシテ露國大使等ヲ引見セシム

ニ生前ノ功ヲ以テ祭料金參千圓ヲ賜フ。琢、明治十年太政官ニ出仕セシ以來、内閣記録局長ヨリ宮内省ニ轉ジ、調査課長ノ職ニアリ、各宮ノ別當ヲ兼ネ、累進シテ内匠頭。帝室博物館總長。宮中顧問官トナリ、又晩年、臨時帝室編修官長等トシテ明治天皇御紀編修ニ從事シ、其ノ間皇子ノ御名。稱號ノ選定ニ當リ、前後功績顯著タリ。侍從職日記・官報・恩賜錄

二十日、午前十時三十分東宮御所ニ於テ皇太子裕仁親王ヲシテ露西亞國特命全權大使バジール。くるべんすき。ちえつこ。すろや。あきあ國特命全權公使どくとる。

年節用

ふらんちせーく・ふあるこふすきーヲ引見セシメラル。
東宮職外事
録・官報

二十三日、明二十四日伊太利國皇帝ルツとりお・え
まぬえーれ第三世成婚二十五年ノ祝典ヲ行フヲ以テ、是
ノ日祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。尋イデ二十五日謝禮
ノ電報ニ接シ給ヘリ。
外交慶弔
録・官報

二十五日、午前十時三十分東宮御所ニ於テ皇太子裕仁
親王ヲシテ墨西哥合衆國特命全權公使どくとる・どん・
れおぼるど・ぶらすけすヲ引見セシメラル。
東宮職外事
録・官報
二十六日、宮中ニ於テ午餐ヲ催サセラレ、皇后出御、

皇太子ヲシ
テ墨西哥公使
ヲ引見セシ
ム
白蘭大使ニ
賜餐

圖書寮

皇太子裕仁親王・成久王・同妃房子内親王ヲ召シ、白耳
義國特命全權大使あるべーる・ど・ばつそむびえーる夫
妻及ビ娘竝ビニ内閣總理大臣原敬・外務大臣伯爵内田康
哉・宮内大臣子爵牧野伸顯等ニ陪食ヲ賜フ。
侍從職日記・
典侍日記・

謁見録・外
事録・官報

二十八日、宮中ニ於テ午餐ヲ催サセラレ、皇后出御、
皇太子裕仁親王・守正王・同妃伊都子ヲ召シ、亞米利加
合衆國特命全權大使ちやーるす・びー・わーれん夫妻竝
ビニ内閣總理大臣原敬・外務大臣伯爵内田康哉・宮内大
臣子爵牧野伸顯等ニ陪食ヲ賜フ。
侍從職日記・典侍日記・
謁見録・東宮職外事録・

米蘭大使ニ
賜餐

年報

天皇節祝日
ニヨリ皇太
子ヲシテ臨
マシム

報官

三十一日、天皇節祝日ニヨリ觀兵式場及ビ豐明殿賜餐
場ニ皇太子裕仁親王ヲシテ代リテ臨マシメラル。侍從職
侍從武官府日誌・儀式錄・東宮
職典式錄・東宮職行啓錄・官報
十一月一日、是ヨリ先、八月十八日海軍軍令部長海軍
大將山下源太郎ニ謁ヲ賜ヒ、海軍小演習計畫ヲ勅裁アリ、
更ニ九月二十六日山下海軍軍令部長ヲ召シ、其ノ演習指
導方案ヲ叙開アリ、同人ニ統監ヲ命ゼラレタリ。尋イデ
演習ヲ行フニ當リ、實況ヲ觀察ノ爲メ十月八日侍從武官
向井彌一ヲ遣サレシガ、是ノ日既ニ演習終了セルヲ以テ

圖書寮

原敬薨ズ

諫ヲ賜フ

山下海軍軍令部長ニ謁ヲ賜ヒ、其ノ覆奏ヲ爲サシム。侍
職日記・侍從武官府
日誌・進退錄・官報

四日、内閣總理大臣原敬ニ謁ヲ賜フ。是ノ夜敬、東京
停車場ニテ兇漢ノ爲メ遭難セルヲ以テ、侍醫八代豐雄及
ビ侍從子爵松浦靖ヲ其ノ邸ニ遣シ存問セシメラレ、又位
二級ヲ進メ正二位ニ敘シ、大勳位菊花大綬章ヲ授ケラル。
尋イデ薨ズ。翌五日侍從子爵黒田長敬ヲ其ノ邸ニ遣シ弔
問セシメ、十日葬儀ヲ盛岡市ニテ行フニヨリ、侍從子爵
松浦靖ヲ同地ニ遣シ、諫及ビ祭料金五千圓。幣帛。供
物。花ヲ賜フ。諫左ノ如シ。

年功ヲ用

屢々大政ニ參シテ治化ヲ昌期ニ贊ケ遂ニ洪鈞ヲ乘リ
 テ憂勞ヲ戰後ニ效シ能ク時勢ヲ觀テ以テ匡濟ノ才ヲ
 呈シ審ニ事宜ヲ度リテ方ニ平和ノ計ヲ運ス功勳昭ニ
 著レ聲望彌々隆ナリシニ凶聞遽ニ臻ル曷ソ軫悼ニ任
 ヘン茲ニ侍臣ヲ遣シ賻ヲ齎シテ臨ミ弔セシム
 更ニ十一日同侍從ヲ葬場ニ遣シ燒香セシメラル。後、弔
 電ヲ寄セタル佛蘭西國及ビ墨西哥合衆國各大統領ニ答禮
 ノ電報ヲ發送アラセラル。因ニ敬ハ盛岡ノ人、少壯ニシ
 テ東京ニ遊學、初メ新聞社ニ入り、斯界ニ活躍、後、外
 務省ニ轉ジ、外務次官ニ進ミ、外交界ニソノ偉彩ヲ發揮

圖書寮

シ、退官後、政友會ニ入り、明治三十二年十二月始メテ
 臺灣ニ連リ遞信大臣トナリ、更ニ内務大臣ニ歷任、晩年
 侯爵西園寺公望ノ後ヲ繼ギ、政友會總裁ト爲リ、遂ニ大
 正七年九月寺内内閣挂冠ノ後ヲ承ケ首相ノ印綬ヲ帶ビ、
 我が邦政黨内閣ノ端著ヲ開ケリ。爾來、大戰後ノ經營ニ
 カヲ致セシガ、不幸兇刃ニ仆レタリ。蓋シ此ノ榮アル所
 以ナリ。侍從職日記・典侍日記・
 昭勳錄・恩賜錄・官報
 是ノ日、外務大臣從二位勳一等伯爵内田康哉ヲシテ臨
 時内閣總理大臣ヲ兼ネシム。官報
 十日、午前十時四十分御座所ニ於テ臺灣軍司令官陸軍

年御ヲ用

中將福田雅太郎ヲ召シ、管下ノ狀況ヲ報聞アラセラル。
侍從職日記・侍從武官府日誌

是ノ日、亞米利加合衆國華盛頓市外ありんとんニテ
歐羅巴大戦戦死者記念祭ヲ十一日舉行スルニヨリ、電報
ヲ發送アラセラル。外交慶弔録・官報

皇太子ヲ陸軍特種演習ニ差遣

十三日、皇太子裕仁親王御沙汰ニ依リテ陸軍特種演習
統監トシテ演習地御殿場ニ行啓、十五日還啓アラセラル。
侍從職日記・侍從武官府日誌・皇親錄・東宮職行啓録・官報

是ノ日、午前十一時四十分親任式ヲ行ハセラレ、大藏
大臣從三位勳一等子爵高橋是清ヲ内閣總理大臣兼大藏大

圖書寮

臣ニ任ジ、外務大臣兼内閣總理大臣伯爵内田康哉ノ兼官
ヲ免ズ。侍從職日記・官報

十四日、内苑ニ於テ觀菊ノ御催アリ、皇后ト俱ニ出御
側近者一同ニ陪覽ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日誌・典侍日記

是ノ日、ふいゆめ國臨時大統領ヨリ同政府ノ首長及ビ
臨時大統領ニ選舉セラレタル通知ニ接シ給ヘルニヨリ、
祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。外交慶弔録・官報

十五日、赤坂離宮ニテ觀菊會ヲ開カセラレ、各皇族。
顯臣及ビ外國使臣等ヲ召サセラル。但シ御靜養中ニヨリ
行幸アラセラレズ、皇后並ビニ皇太子裕仁親王行啓アラ

年御ヲ用

皇太子ヲシテ陸軍特別大演習ヲ統監セシム

セラル。侍從武官府日誌・行啓録・典侍日記・親衛會錄・官報

十六日、皇太子裕仁親王勅命ニヨリ陸軍特別大演習統監代行ノ爲メ神奈川縣下ニ行啓スルヲ以テ、請暇ノ爲メ參内アリ、仍リテ謁ヲ賜フ。是ヨリ先、二月二十八日參謀總長元帥子爵上原勇作ニ謁ヲ賜ヒ、陸軍特別大演習計畫ノ件ヲ裁可アラセラレ、其ノ後、數次上原參謀總長及ビ參謀次長陸軍中將菊池愷之助ヲ召シ、大演習ニ關スル御沙汰ヲ賜ヒ、皇太子裕仁親王ニ統監ヲ命ゼラレシナリ。是ノ日皇太子大本營ナル神奈川縣廳ニ行啓、翌十七日ヨリ二十日ニ至ルマデ沙留。下糟屋。長津田。玉川ニテ演

圖書寮

勅語ヲ賜フ

習ヲ統監セラレ、尋イデ代々木練兵場ニテ觀兵式ヲ行ヒ新宿御苑ニテ演習關係諸員ニ饌ヲ賜フ。後、二十二日皇太子參内、演習ノ經過ヲ復命セラレ、又上原參謀總長ヲ召シ、左ノ勅語ヲ賜フ。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日誌・東宮職行啓録・官報

朕皇太子ノ復奏ニ依リ今期特別大演習ノ經過ヲ知り統帥及訓練ノ成果陸海軍ノ協同共ニ概ネ其ノ可ナルヲ認メ深ク之ヲ懌フ然レトモ字内ノ進運ハ瞬時ノ偷安ヲ許サス汝陸海軍ノ將卒益々奮勵努力以テ其ノ重任ヲ完クセンコトヲ期セヨ

二十五日、午後一時五十分皇太子裕仁親王ヲ召シ謁ヲ

皇太子裕仁親王攝政ニ

年御ク用

任ズ

賜フ。尋イデ詔書ヲ以テ皇太子裕仁親王攝政ニ任ズル旨ヲ公布セシメラル。詔書左ノ如シ。

朕久キニ互ルノ疾患ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルヲ以テ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ皇太子裕仁親王攝政ニ任ス茲ニ之ヲ宣布ス

御容體

謹ミテ近時ニ於カセラルル御容體ノ要點ヲ摘録スレバ曩ニ大正三年頃ヨリ輕度ノ御發語御障礙アリ、其ノ後ニ至リ御姿勢前方へ屈セラルル御傾向アリ、同四年十一月頃ヨリ階段ノ御昇降ニ當リテハ多少側近者ノ幫助ヲ要セラレタリ。尋イデ同五年十二月始メテ御尿中ニ微量ノ糖

圖書寮

分顯出アリ、同七年夏季頃ヨリ始メテ御姿勢時々右側ニ御傾斜アリ、御乗馬ノ際モ御姿勢整ハセ給ハズ。又御發語ノ御障礙モ逐次御増進ノ御様子ニテ、加フルニ往時ノ御追憶及ビ現時ノ御記憶等ニ關シ、幾分御腦力御衰退ノ御傾向アリ、

從前

ノ如キ御元氣ヲ拜シ難ク成ラセラレシガ、頃時御判斷御思考等ノ諸腦力漸次衰へサセ給ヒ、御考慮ノ環境モ亦狹隘トナラセラレ、殊ニ御記憶力ハ御衰退アリ、御發語御不自由ノ爲メ御表現甚ダ困難ニ涉ラセ給ヘリ。

年節ク用

皇族會議

聖體ノ御異狀概ネ上記ノ如クナルヲ以テ、去ル十一月二十一日貞愛親王。載仁親王。依仁親王。博恭王。邦彦王。守正王連署シテ皇室典範第十九條第二項ノ適用方ニ就キ審議ヲナス爲メ皇族會議ヲ召集セラレンコトヲ皇太子裕仁親王ニ請フ。仍リテ是ノ日午前十一時西溜間ニ於テ開會、皇太子裕仁親王。貞愛親王。載仁親王。依仁親王。博恭王。博義王。武彦王。恒憲王。邦彦王。守正王。多嘉王。鳩彦王。成久王出席シ、内大臣侯爵松方正義。司法大臣伯爵大木遠吉。宮内大臣子爵牧野伸顯。大審院長平沼騏一郎參列、又宗秩寮總裁事務取扱倉富勇三郎。

宮内次官關屋貞三郎。宮内省參事官南部光臣。宮内事務官子爵松平慶民。同酒卷芳男ハ議事管掌ノ宮内高等官トシテ之ニ出席ス。皇太子裕仁親王議長トシテ議事ヲ統理シ、左ノ議案ヲ可決ス。

皇室典範第十九條第二項適用方ノ件

天皇陛下御病患久キニ亘リ大政ヲ親ラシタマフコト能ハサルヲ以テ皇室典範第十九條第二項ノ規定ニ依リ攝政ヲ置カルヘキモノト議決ス

會議十分ニシテ十一時十分終了セリ。因ニ議員邦芳王及ビ參列員樞密院議長公爵山縣有朋ハ病氣療養中ニヨリ缺

年御ヲ用ヒテハ...

攝政ノ沿革

席セリ。猶ホ午後一時更ニ議題ハ樞密顧問ノ審議ニ附セラレタリ。

抑、我が國ニ於ケル攝政設置ノコトハ、其ノ沿革極メテ古ク、應神天皇幼冲ニ涉ラセラルルヤ、紀元八百六十年皇太后氣長足姫尊攝政ニ任ジ給ヘルコト日本書紀ニ見エ、尋イデ推古天皇ノ御宇ニハ皇太子厩戸豐聰耳皇子、齊明天皇ノ御宇ニハ中大兄皇子攝政ニ任ゼリ。兩帝共ニ女帝ニ涉ラセラレタルヲ以テナリ。又飯豐青皇女ハ忍海角刺宮ニ於テ臨朝秉政ノコトアリ、天武天皇ハ皇太子草壁皇子ヲシテ萬機ヲ攝行セシメ給ヘリ。斯クテ上古ハ主

圖書寮

攝政ノ國法上ノ地位

トシテ皇太子之ニ任ジ、然ラザル時ト雖モ皇族ニ限ラレタルヲ知ルベシ。然ルニ清和天皇ノ御宇紀元千五百二十六年外祖父太政大臣藤原良房ニ詔シテ天下ノ政ヲ攝行セシメラルルニ至リ、人臣攝政茲ニ始マレリ。爾後、天皇御幼少ノ間ハ攝政ヲ置ク例トナリ、攝政ハ天皇ヲ輔弼シ奉ルベキ最高ノ官職ニ外ナラザリシガ、明治維新ニ當リ王政復古ト共ニ此ノ制ハ廢セラレタリ。明治二十二年大日本帝國憲法ノ發布並ビニ皇室典範ノ制定セララルルニ及ビ、其ノ規定スル處、攝政ハ古制ヲ裁酌スト雖モ同一ニハ非ザルナリ。大日本帝國憲法及ビ皇室典範ノ章條ニ違

年功ヲ用ヒテハ...

大正十年十一月

攝政ノ沿革

席セリ。猶ホ午後一時更ニ議題ハ樞密顧問ノ審議ニ附
 ラレタリ。

抑、我ガ國ニ於ケル攝政設置ノコトハ、其ノ沿革極
 テ古ク、應神天皇幼冲ニ涉ラセラルルヤ、紀元八百六
 一年皇太后氣長足姫尊攝政ニ任ジ給ヘルコト日本書紀
 見エ、尋イデ推古天皇ノ御宇ニハ皇太子厩戸豐聰耳皇
 齊明天皇ノ御宇ニハ中大兄皇子攝政ニ任ゼリ。兩帝共
 女帝ニ涉ラセラレタルヲ以テナリ。又飯豐青皇女ハ忍
 角刺宮ニ於テ臨朝秉政ノコトアリ、天武天皇ハ皇太子
 壁皇子ヲシテ萬機ヲ攝行セシメ給ヘリ。斯クテ上古ハ

圖書

四〇

攝政ノ國法上ノ地位

トシテ皇太子之ニ任ジ、然ラザル時ト雖モ皇族ニ限ラ
 タルヲ知ルベシ。然ルニ清和天皇ノ御宇紀元千五百二
 六年外祖父太政大臣藤原良房ニ詔シテ天下ノ政ヲ攝行
 シメラルルニ至リ、人臣攝政茲ニ始マレリ。爾後、天
 御幼少ノ間ハ攝政ヲ置ク例トナリ、攝政ハ天皇ヲ輔弼
 奉ルベキ最高ノ官職ニ外ナラザリシガ、明治維新ニ當
 王政復古ト共ニ此ノ制ハ廢セラレタリ。明治二十二年
 日本帝國憲法ノ發布竝ビニ皇室典範ノ制定セラルルニ
 ビ、其ノ規定スル處、攝政ハ古制ヲ裁酌スト雖モ同一
 ハ非ザルナリ。大日本帝國憲法及ビ皇室典範ノ章條ニ

大正十年十一月

四一

レバ、攝政ヲ置ク場合ニ二種アリ。即チ天皇未成年ニ涉ラセラルル時、又ハ天皇久キニ亘ル故障ニ由リ、親政不能ニ涉ラセラルル時ニ限ラレタリ。而シテ攝政ハ其ノ孰レノ場合ヲ問ハズ攝位ニ非ズ。攝位トハ天位ニ空闕ヲ生ジタル時其ノ間國政ヲ攝行スル者ノ謂ニシテ、或ハ之ヲ中繼君主ト稱ス。我ガ國法ニ在リテハ寸時タリトモ天位ノ空闕ヲ生ズルコト無キヲ以テ、攝位ノ要ヲ認メザルナリ。又攝政ハ官職ニ非ザルヤ言ヲ俟タズ。攝政ハ天皇ノ御名ニ於テ大權ヲ攝行スルヲ以テ其ノ本義ト爲ス。從ヒテ攝政ハ政治全般ニ亘リテ之ヲ總攬スルコト天皇大政ヲ

攝政就任ニ
ヨリ祭典及
ヒ奉告ノ儀

親ヲ爲シ給フト異ル所無キヲ本義トス。但シ攝政ヲ置クノ間、帝國憲法及ビ皇室典範ヲ變更スルコトヲ得ザルハ、蓋シ攝政ノ權能ニ對スル唯一ノ制限ナリ。猶ホ攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ズルヲ第一順位トス。

以上略述セルガ如ク攝政ヲ置クハ國家皇室ノ大事ナルガ故ニ、攝政令ハ攝政就任ノ際宮中ニ祭典ヲ行フベキ旨ヲ規定セリ。是ヲ以テ皇太子裕仁親王攝政ニ任ズルヤ、翌二十六日賢所ニ祭典ヲ行ハセラレ、皇靈殿・神殿ニ奉告セラル。翌イデ十二月十三日神宮ニ十四日神武天皇。

東宮大夫ノ
更迭

明治天皇。昭憲皇太后ノ山陵ニ奉告セシメラレタリ。
職日記・典侍日記・侍從武官府日誌・儀式錄・祭祀錄・
 典式錄・官報・日本法制史論(牧健二)・帝國憲法皇宮
 典範義解(伊藤博文)・皇宮制度講話(酒井芳男)・
 皇宮典範(清水澄)・帝國憲法(清水澄)・尙藏文書
 是ノ日、侍從次長。侍從及ビ東宮侍從ノ定員ニ關スル
 件ヲ裁可シ、之ヲ公布アリ。侍從次長ヲ二人ト爲スコト
 ヲ得シメ、又侍從及ビ東宮侍從ハ相互兼任スル場合又ハ
 他官ヨリ兼任スル場合ニ於テハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ
 得シム。尋イデ樞密顧問官兼東宮大夫從二位勳一等男爵
 濱尾新ノ兼官ヲ免ジ、勳功ニ依リ特ニ子爵ニ陞シ旭日桐
 花大綬章ヲ授ケラル。而シテ樞密顧問官從二位勳一等伯

圖書寮

攝政陸軍大
學校ニ行啓
 攝政海軍大
學校ニ行啓

爵珍田捨巳ヲ東宮大夫ニ兼任セシメ、特ニ親任官ノ待遇
 ヲ賜フ。又東宮侍從長正三位勳二等子爵入江爲守ヲシテ
 侍從次長ヲ兼ネシム。官報・進退錄
 二十七日、午前十一時成久王ニ謁ヲ賜フ。王ハ歐洲軍
 事及ビ社會事業見學トシテ明日出發スルヲ以テナリ。侍從
 記職日
 二十八日、攝政裕仁親王陸軍大學校ニ行啓、卒業式ニ
 臨ミ、優等卒業生ニ賞ヲ賜フ。コレ皇太子裕仁親王攝政
 トシテ行啓ノ初度ナリ。尋イデ三十日ニハ海軍大學校ニ
 行啓アリ、卒業式ニ臨ミ、優等卒業生ニ賞ヲ賜ヘリ。內宮

上田有澤亮

省省報・行
啓録・官報

三十日、陸軍大將正四位勳一等功二級男爵上田有澤亮
 篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從三位ニ敍セラル。
 其ノ薨ズルヤ、十二月三日送葬ニ當リ侍從落合爲誠ヲ勅使
 トシテ同邸ニ遣シ、祭料金貳千五百圓・幣帛ヲ賜フ。
 有澤、明治四年陸軍大尉心得ニ出身以來累進シ陸軍大將
 トナリ、其ノ間、臺灣守備軍・朝鮮軍ノ司令官・各師團
 長ノ要職ニアリテ勳勞多ク、四十年男爵ヲ授ケラレタリ。
 侍從職日記
 恩賜録・官報
 十二月一日、英吉利國皇女めりー内親王婚約成立ニヨ

圖書寮

攝政佛國大
使ヲ引見

リ、同國皇帝じーじ第五世ニ慶賀ノ電報ヲ發送アラセ
 ラル。尋イデ四日禮電ヲ受ケ給ヘリ。外交庶務
録・官報
 三日、午前十時三十分攝政裕仁親王鳳凰閣ニテ亞米利
 加合衆國人ぜー・えー・える・わつてる及ビ陸軍特別大
 演習陪觀ノ爲メ來朝セル支那國陸軍中將何恩溥等ヲ引見
 アリ。侍從職日記・典侍日
記・謁見録・官報
 七日、午前十時三十分攝政裕仁親王鳳凰閣ニ於テ佛蘭
 西國特命全權大使ぼーる・るい・しゃーる・くろーでる
 ヲ引見、信任狀ヲ受ケサセラレ、十時四十五分亞米利加
 合衆國亞細亞艦隊司令長官海軍大將すとらうす・ひゅー

皇后ト俱ニ
葉山ニ御遊

ろん艦長海軍大佐えつち・あい・こーん等ニ謁ヲ賜フ。
 正午皇后出御アラセラレ、攝政裕仁親王、依仁親王。同
 妃周子ヲ召シ午餐ノ御催アリ、くろーでる夫妻並ビニ内
 閣總理大臣子爵高橋是清。外務大臣伯爵内田康哉。宮内
 大臣子爵牧野伸顯等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・典侍日
記・謁見録・官報
 十九日、午前十時二十分皇后ト俱ニ御出門、同三十分
 東京停車場御發車、攝政裕仁親王並ビニ各皇族及ビ臣僚
 ノ奉送ヲ受ケサセラレ、十一時五十分逕子停車場御著車、
 午後零時二十分葉山御用邸ニ著御、是ヨリ翌十一年五月
 九日ニ至ルマデ駐蹕、只管御靜養アラセラル。侍從職日
記・典侍

圖書寮

昭憲皇太后
御集成ル

日記・侍從武官府日
誌・幸啓録・官報

是ノ日、陸軍中將從三位勳一等功三級福田雅太郎・同
 正四位勳一等功二級山梨半造ヲ陸軍大將ニ任ズ。官報
 二十日、昭憲皇太后御集ノ編纂成リシヲ以テ之ヲ奏上
 セシメラル。是ヨリ先、明治天皇御集略ニ成ルニ及ビ、
 之ニ倣ヒテ昭憲皇太后ノ御集ヲ作ルベキ旨去ル大正八年
 四月二十四日御沙汰アリ。御歌所臨時編纂部長子爵入江
 爲守以下委員等撰ニ當リ茲ニ成ル。後、群臣ニ領賜セシ
 メラルルコト一ニ明治天皇御集ノ如シ。昭憲皇太
后御集
 二十一日、侍從長正二位勳一等伯爵正親町實正ヲ賞勳

攝政帝國議會開院式ニ

局總裁ニ任セラレ、特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ。二十六日
 實正ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・進退錄・幸啓錄
 二十二日、宣仁親王ニ謁ヲ賜ヒ、皇后ト俱ニ午餐ニ陪
 セシム。爾後、年内駐蹕中謁ヲ賜ヘル皇族ニハ皇太子裕
 仁親王。雍仁親王アリ。侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日誌・幸啓錄
 二十四日、攝政裕仁親王宮中ニ於テ邦彦王・守正王ヲ
 召シ、内大臣侯爵松方正義。元帥伯爵東郷平八郎。内閣
 總理大臣子爵高橋是清以下各國務大臣。樞密顧問官等ニ
 午餐ノ陪食ヲ賜フ。官報・宣召錄

二十六日、攝政裕仁親王貴族院ニ行啓、帝國議會開院

行啓

三須宗太郎
薨ズ

式ニ臨マセラレ、勅語ヲ賜フコト恒例ノ如シ。攝政開院
 式行啓ノ初度ナリ。侍從職日記・帝國議會錄・官報
 二十七日、故海軍大將正三位勳一等功二級男爵三須宗
 太郎送葬ニ當リ、侍從伯爵清水谷實英ヲ勅使トシテ其ノ
 邸ニ遣シ幣帛ヲ賜フ。猶ホ生前ノ功ニ依リテ祭料金貳
 千圓ヲ賜フ。宗太郎、明治十四年一月海軍少尉ニ出身以
 來累進シテ海軍大將トナリ、艦隊司令官。鎮守府司令長
 官。海軍軍令部次長。海軍教育本部長等ノ要職ニ歷補シ、
 又戰役ニ參加シテ勳功アリ。其ノ間、明治四十年男爵ヲ
 授ケラル。侍從職日記・恩賜錄・官報

3206 304

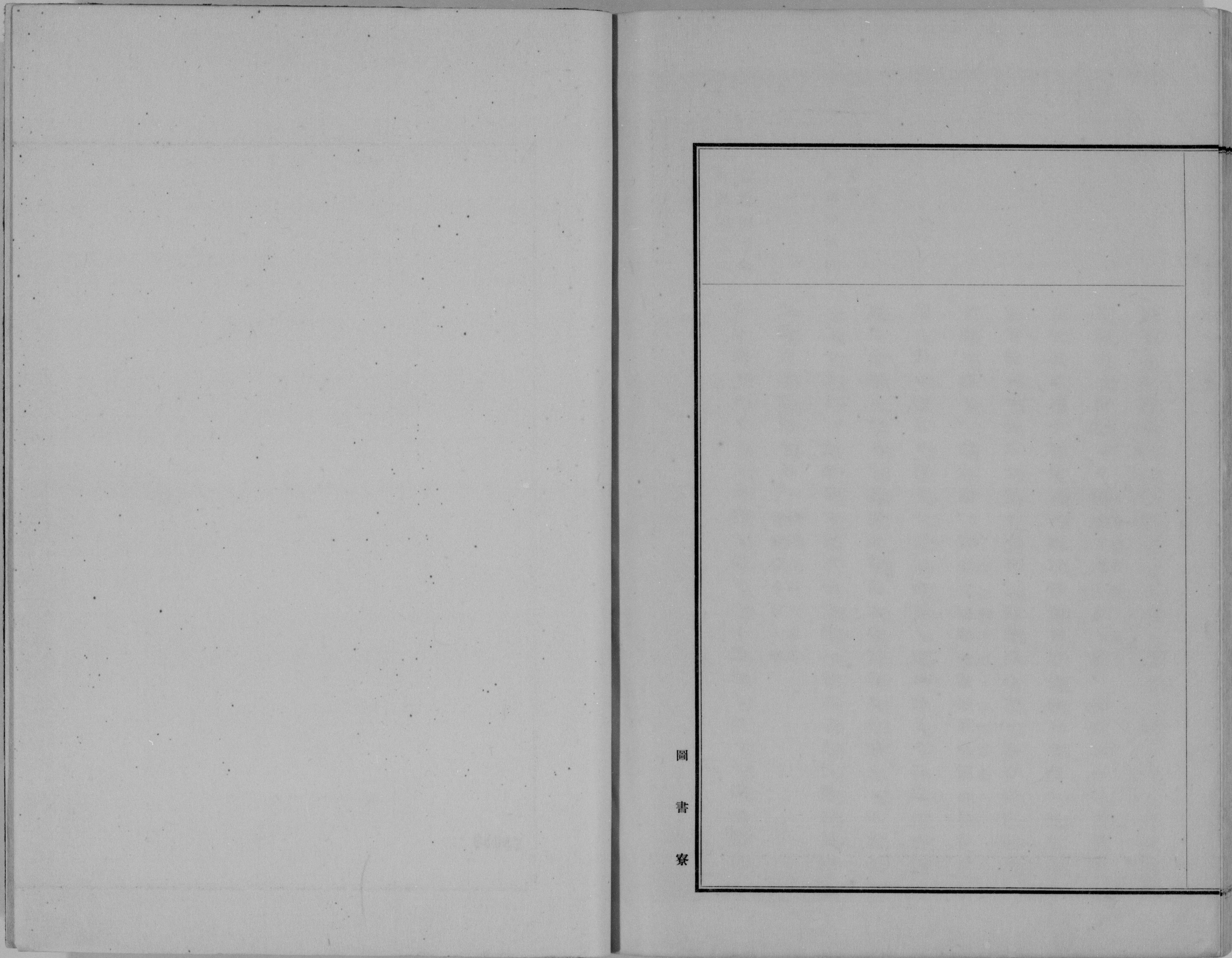


圖
書
寮

3206 305

64047

3206 306

